

本「朔東から」の本旨は所謂道東に関わる話題の提供であるが、少々ずれる事を承知して頂きたい。『海の日』に山登りをした。天候は少々悪いかも知れぬとは思ったが、決行することとした。朝 0600 出発、目指す山は、日高支庁管内様似町のアポイ岳である。小学低学年 3 名や家内を含む 10 名であり、車 3 台に分乗しての 3 時間半の行程だ。



(キンロバイ：ピュアな黄色が素晴らしい。)

アポイ岳高山植物群は、朔東から第 85 号で紹介したとおり昭和 27 年 3 月 29 日に特別天然記念物に指定されており、英知の神々が住む伝説の「知恵の山」と呼ばれる。また、標題の如く『花の名山』とも言われる一度は登ってみたい山である。然しながら、意外に知られていない。そのことが、山の自然を守る事に役立っても居るのだろうか。80 種以上の花の山アポイ岳、登山に 3 時間。標高も 810m 余と日高山脈の中では、さほどではない。登山口は標高が 50m 程だから、結構有るといえば有るのかも知れないが、・・

今の時期は、アポイ岳の固有種であるヒダカソウ、アポイアズマギク等は見ることが出来ないが、それなりに多くの高山植物を見ることが出来るのだろうとの期待を込めての登山行である。

9 時少し前、出発、入山者名簿に記載して勇躍の登山開始、当日までに既に 6 頭のヒグマの目撃情報ありとの掲示板、「熊出没注意」の看板にやや緊張しつつではあったが、出迎えて呉れたのは、エゾ鹿の群れであり、これで付近には熊は居ないだろうとやや安堵したのだが・・。5 合目までの林内の所々には、熊除けの鐘なるものが吊ってあり、これを鳴らして熊に警告をする。先ず、最初に目にした花は、「エゾシャクケナゲ」だ。5 合目までの林内の処々に可憐な白やピンクの花が咲き、蕾が膨らんでいる。登山道は比較的整備されていると言えよう。

林内を快調に進めば、1 時間ほどで 5 合目の（避難 or 休憩）小屋であり、ここで一挙に視界が開け、左手前方にはアポイ岳山頂、馬の背に至る急斜面が行く手を阻むかの如くに屹立し、右手眼下に太平洋を臨むことが出来る。暫くすると 8 合目以上が霧に隠れてしまった。

5 合目以降、馬の背（7 合半位か）までは急峻な登りだ。女性・子供には相当きついのではないだろうか。途中で小粒の雨だ。山の雨粒は意外に大きい。某に作って貰ったアポイ岳の花の写真集に照らし合わせつつ前進する。サマニオトギリ、コキンバイ、キンロバイなどの黄色い花が多い。ヤマツツジか躑躅も見られる。青紫の小さな花は何という名前だろう。途中の休憩を挟み、確実に標高は高くなり、馬の背の端に到着。

馬の背を慎重に時には太平洋や様似などの街並み、深い緑色の谷を眺めながら、そして勿論左右の高山植物に注意を払いながら進む。アヤマがある。遠くにあつて定かには見えぬ青色の花は何か不明であるが、それでもその可憐さだけで満足だ。敢えて名前など知る必要はないだろう。馬の背以降は、ハイマツが生え繁っている。ハイマツの枝に白い袋が被せてある。下山して確認したところ、ハイマツの種子の保護の為だそうだ。

馬の背を過ぎると最後のハートブレイクの急坂だ。9合目の表示はカンラン岩に描かれてあって看板はない。最後の気力を振り絞るといって程のきつさはないが、最後の一踏ん張りで、頂上である。3時間弱の行程だ。頂上には先客10名ほどか。ダケカンバに覆われており、眺望が利かなくて、残念だ。それでも、太平洋や海岸線一帯を眼下に眺めようと思えば出来ないことはない。頭頂のみに樹木があるというのはモヒカンみたいなものだ。頂上の祠に安全を祈願して昼食を摂る。食欲旺盛で、家内の分まで食べたかも知れない。

さて、下山開始、馬の背では鶯の囀りが聞こえる。カンラン岩が濡れてスリッパしやすいので慎重に歩を運ぶ。時には霧が視界を遮り、雨が岩を濡らす。と、何時しか視界が開けるから不思議だ。5合目に降りて、馬の背とアポイ山頂を振り返る。一緒に登山した小学生の健脚に、今更ながら驚いた次第である。家内も膝が云々なりそうと言いつつも何ともなく良く降りてきたものだ。アポイの山が良く頑張ったと誉めてくれているかの様に雨上がりの空に映えていた。ここからはまた、林内に入るが、先が見えていると歩き易いものである。道有林の主要な樹木には、名前が付けられている。曰く「アオダモ」「キタゴヨウマツ」「キハダ」等々

一合目の看板を過ぎて、登山の時には気付かなかった看板に気付き、慌てて靴の泥を小川で洗ったのであるが、どうも可笑しい。入山時に異種の侵入を防ぐ為の処置なのである。ハイマツの種子の保護と言ひ、入山時の靴泥落としと言ひ、ロープ外の侵入禁止など特別天然記念物を守る為の措置が色々と施されている。盗掘や心無い登山客に踏み荒らされる事も多いのだろう。

下山は膝を気遣いつつであるので、のんびりだ。概ね2時間の行程であった。登山口の掲示板によると、現在確認できる高山植物は17種か。何れ、写真と照合すればはっきりするが…。

登山後には、アポイ山荘での温泉入浴が最高だ。疲れた筋肉をほぐせば、痛みを翌日に持ち越すことはないだろう。そう、ありがたいものだ。

私共に付き合っ貰った人々に感謝。合掌。